

# まもれシモキタ！通信



## 下北沢の「これから」のために

### ——アスファルトでなく、緑を！

**上** 存知のように、下北沢を再開発し、ビルと車の街に変えてしまいう計画が進行中です。

**二** の計画に対しては、専門家調査した住民アンケートで「7割が反対」しています（2006年1月発表）。行政サイドは「住民の賛成があつて計画を進めている」という態度をとっています。06年10月18日、世田谷区の都市計画審議会で「下北沢地区地区計画」の審議が行われたのです。

現在の下北沢は、なにより道が細くて自動車が入ってこないために、発展してできた街と言えます。個人経営の店舗がたたくさん集まり、街を歩き回るだけで楽しめます。駅から少し離れると落ち着いた住宅街が広がり、人が暮らすのにとっても良い環境が整っています。ですが、この計画では、そんな街の良いところを、一気に壊してしまいます。道路が出来る、空気が汚れ、騒音問題が発生す

が、その際に、区の職員が、一部住民に対して賛成するように「ヤラセ意見書」を配布し、計画を推進しようとする不正を働いてきたことが明らかとなったのです。

しかし、同日、東京都により「補助54号線第1期工事区間」の事業認可が下されてしまいました。このことにより、下北沢の店舗に立ち退きを迫って土地を買収し、計画が進行することが法的に可能となつてしまいました。

**下** 北沢にお住まいのみなさん、シモキタを好きだというみなさん。行政計画をストップさせ、下北沢で活動中の各団体が提案している「代替案」をもとに、現在の街の良さを活かして、さらに住民の目からみたアイデアや改善点を盛り込んだ計画を進めていきませんか？ そのためには、まずは現在の行政計画をストップさせなくてはなりません。その第一歩と

多く土地買収はスムーズに進まないことが明らかです。いままですぐに道路ができるという訳ではありません。行政がどんな買収を進めて既成事実を作ってしまう前に、裁判を盛り上げ、シモキタの街全体でこの計画にNO！ということ、この計画がストップする可能性は十分あります。

●まもれシモキタ！行政訴訟の会  
03-5452-2015  
(コモン法律事務所内)  
www.shimokita-action.net

●他団体へのアクセス  
セイブ・ザ・下北沢  
090-3538-3679  
(シモダイヤ)  
www.stsk.net

●下北沢商業者協議会  
03-3419-6848  
(FAX)  
080-5426-8904  
(クヤマ)  
www.shimokita-sk.org

### まもれシモキタ！行政訴訟の会

〒155-0031  
世田谷区北沢2-9-19  
植松第一ビル201  
コモン法律事務所内  
TEL: 03-5452-2015  
FAX: 03-5452-2016  
URL: www.shimokita-action.net

### 目次

- 1 下北沢の「これから」のために
- 1 第二回口頭弁論が開かれます
- 2 シモキタの声
- 3 インタビュー 私にとっての下北沢
- 4 下北沢でいま起きていること

### 裁判を傍聴しませんか？

次回（第二回）の口頭弁論のお知らせです。どなたでも傍聴できます。終了後の「報告会」にもご参加ください。

- 日時  
1月29日（月）  
傍聴受付 13:00～  
開廷 14:00～
- 場所  
東京地方裁判所 大法廷（103号）  
（地下鉄丸の内線・日比谷線・千代田線「霞が関駅」A1出口から徒歩1分、有楽町線「桜田門駅」5番出口から徒歩約3分）
- お問い合わせ  
03-5452-2015（事務局）

# シモキタの声

2006年11月20日、「ままれシモキタ！行政訴訟」の第一回口頭弁論が行われました。裁判官に、下北沢の「生の声」を伝えるために、原告3名が「意見陳述」を行いました。

## ●原田 学

私は、1973年から33年間に渡って下北沢に居住し、その内23年間は道路予定地の上に住んでおります。

## シモキタは「創造の街」

私の下北沢との関わりは、私の会社の歴史と重なります。1973年に起業するに際して最初にオフィスを作ったのが下北沢です。他の場所でもよかったです。私が下北沢が好きで、少し無理をして決めたのです。

その頃の南口商店街は今ほどの賑わいはなく静かなものでしたが、夜の店も昼の店でも特徴のある店がたくさんありました。独創的で、自立したものの作りを目指した私は、ソクラテスよろしく昼のシモキタ、夜のシモキタをさまざまに思索を重ねた

ものです。そして、多くの特許と製品、そして国際規格や日本の規格製品を生み出してきました。シモキタは、私にとって「創造の街」です。

## 住まいとしての下北沢

会社が大きくなり、本社は渋谷区に移転しましたが、住まいはずっと下北沢です。その立場から、自動車の為の新しい道路は住民には全く必要ありません。自動車に追い立てられずに出来る買物、毎日が歩行者天国、歩いて安心出来る路地。このすばらしい生活環境が失われることは許せません。

## ●三枝龍次郎

私は、道路予定地の代沢1丁目に住んでいます。

## 環境の良い下北沢

昭和19年の生まれで

すが、生まれてからずっと下北沢に住んでいます。子供の頃は、小学校の横に流れていた北沢川で、よく亀をとって遊んでいました。60年以上住んでいます。街の良い環境は今日に至るまであまり変わっていません。

## 三軒茶屋と下北沢の変化

かつて住んでいた代沢4丁目は、下北沢と三軒茶屋の間にあるのですが、この辺りの人達は、三軒茶屋に買い物に行っていました。ところが、東京オリンピックの時くらいから、代沢4丁目の人達も下北沢に買い物に行くようになりました。

その理由のひとつは、三軒茶屋に首都高ができて、国道246号線が拡幅されて、三軒茶屋の街が分断されてしまったことです。日差しが遮られてしまっただけで暗くなってしまいました。また、三軒茶屋は246の北側にも南側にも商店があるので、246が拡幅されたことよって、道路の反対側に行くのが難しくなりました。三軒茶屋は、大きな道路ができて街が

分断されたことよって、商店街としては廃れてしまったというわけです。もうひとつの理由は、

下北沢に来る人の層も変わってきたことです。この頃から、シモキタには日常の買い物ができる店が増えてきました。こうして下北沢が、主婦、子供、若者、お年寄りなど、様々な人が集まって来る街に変わっていったのです。

## ●山崎千鶴子

私は、下北沢で35年間、お店をやっており、「マザー」と「マザーズ・ルーイン」という2つのロッ

クバーを経営しています。また、お店を始めてからずっと下北沢に住んでいます。

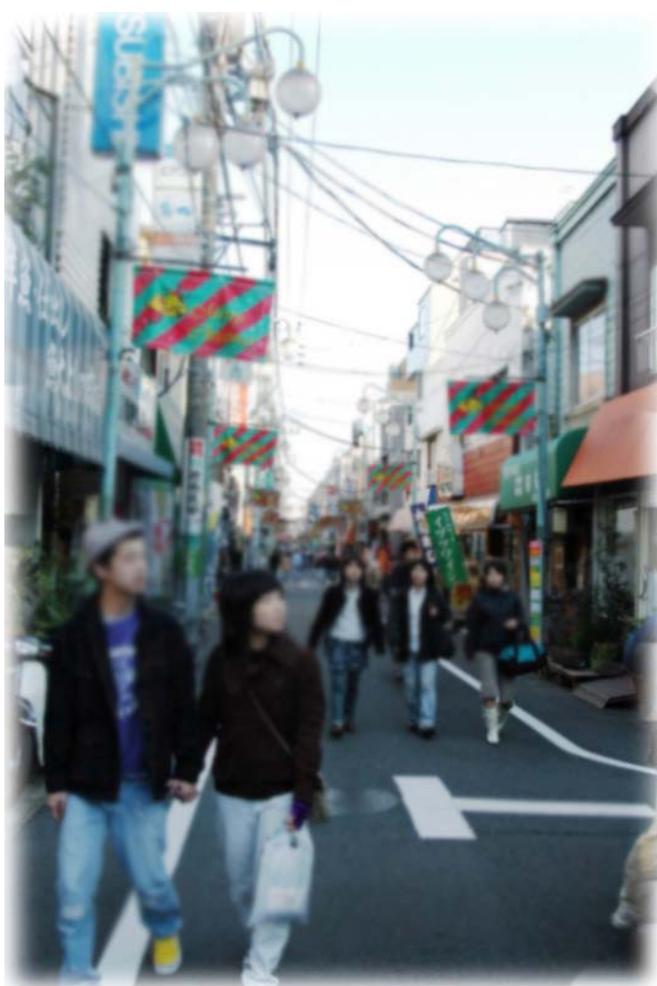
## 70年代のシモキタ

「マザー」には、近隣の大学の学生さんや近くに住む若い人たちがお客さんとして来てくれました。また、芸能関係の人もよく来てくれました。

普段からあたり前のようにお客さん同士が、自分たちの活動や芸術について語り合っていました。下北沢でさまざまな文化が育ったのは、日常的にこうした人と人の交流があったからだと思えます。

店の中の小さなシモキタ 下北沢の店では、初めてのお客さん同士が気軽に話を始めて意気投合するという場面をよく見ますが、これは、買い物途中の人が、細い通りで立ち話をしている光景と重なります。店の中には、それぞれの小さなシモキタがあり、ひとつひとつの店がシモキタと一体となって存在していると言ってもいいと思います。長い時間をかけて作られた街並み、私の大好きな下北沢をどうか壊さないでください。

(一部省略・抜粋しました)



車を心配することなくゆったりと歩くことができる下北沢



# 下北沢でいま起きていること

## 60年前の都市計画道路が、なぜいま？



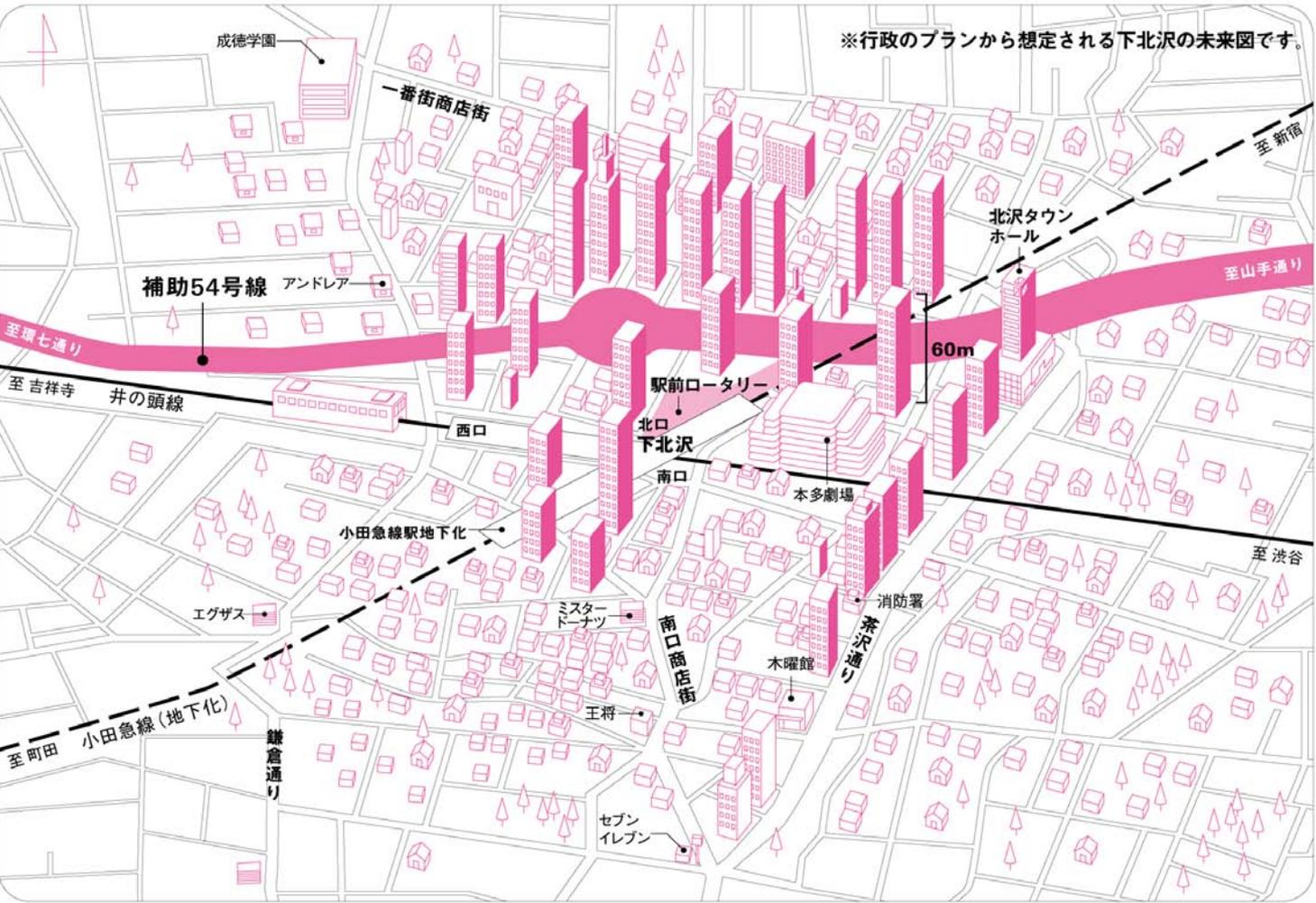
図：駅前バスロータリー

## 歩ける街「下北沢」が、ビルと車の街に・・・

現在、下北沢では、大規模な再開発事業が動き出そうとしています。まず、店舗が連なる駅の北口の中心を分断してしまう幅26メートル（環七と同じ幅）の補助54号線。そして、駅前には巨大なバスロータリー。さらに高さ最大60メートル（17階程度）ま

ある試算によれば、補助54号線の工事費用(第一期工区のみ)は、下北沢周辺住民の人口で割った場合、一人当たり約100万円にもなるといわれています。また、「セイブ・ザ・下北沢」や「下北沢フォーラム」などの市民グループが大規模開発に代わる「代替案」を提案していますが、行政はそれを検討することなく事業着手に向けて突き進んでいます。

のビルを建てられるように誘導する「地区計画」。この3つの計画をセットにして、下北沢を「ミニ渋谷」のような街にしようというのが行政の計画です。行政は最近になって道路が必要なのは、「防災のため」ということを盛んに言うようになりまし。しかし何人もの都市計画や交通工学の専門家らが主張しているように、道路をつくることは必ずしも防災にとつて効果的ではありません。またこの道路が計画されている地域は、そもそも東京都の防災危険地域からも外れています。行政が行おうとしているのは、防災を言い訳にした、「無駄な公共事業」街壊し」でしかありません。



※行政のプランから想定される下北沢の未来図です。

補助54号線、駅前バスロータリー、高層ビルの誘導という、3つの計画をセットにした再開発事業です。

編集後記：あけましておめでとうございます。今回の「シモキタ通信」、だいぶ文字が多くなってしまったのですが、いかがでしたでしょうか。みなさまのご意見ご感想をお待ちしています（励みになりますので、ぜひ！）。またこの「通信」の編集や配布を手伝っていただける方も大募集中です。info@shimokita-action.net まで。（木村）